

## 令和3年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価報告

### 1. めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力」と「豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、将来を生きていく力と、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、豊かな情操を育むとともに確かな学力を育成する。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりが持つ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

### 2. 中期的目標

「確かな学力」と「豊かな情操」を教育方針に、「常に向上をめざし努力すること」、「人を思いやり物にも感謝すること」、「ものごとに素直に感動する心を持つこと」の三つを目標として掲げている。これらのことを基軸として、年度当初に示す学校経営方針に沿って各教職員が取り組んでいる。

#### (1) 学校運営

- ①生徒に満足感や充実感を与える工夫された授業・クラブ活動への取り組み
- ②学校の安全対策と配信システムの整備
- ③ICT教育の推進のため、ICT教育推進部の新設
- ④組織の活性化による学校改革への意欲向上
- ⑤生徒募集定員の確保

#### (2) 教育実践の充実

##### ①教科指導

- ・高校の学習指導要領改訂に伴う特色あるカリキュラム編成
- ・アクティブラーニングなどの手法を用いた授業方法・授業内容の工夫改善
- ・各教科で設定した研究テーマに沿った研修
- ・英会話の運用力の向上と、今後の英語教育の進展を踏まえた取り組み

##### ②生徒指導

- ・挨拶運動の推進
- ・生徒一人ひとりに寄り添った学級指導
- ・新制服導入に伴い、制服の着こなしについての指導

③進路指導

- ・新しい入試制度に対応した進路指導。
- ・学校推薦型選抜等の活用
- ・退学の防止対策

④ICT教育の推進

- ・情報端末機器（iPad）を活用した授業実践
- ・統合システムなど、校内の情報化のための整備。
- ・ICTリテラシーの育成とセキュリティーの確保

⑤人権教育

- ・人権意識の醸成
- ・人権教育にかかる授業の工夫改善

⑥情操教育

- ・人間としての生き方や在り方を考える道徳教育の研究・実践
- ・宗教の時間を通して心豊かな人間の育成

⑦家庭との連携

- ・ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行
- ・保護者ニーズの把握と適切な対応

⑧広報・募集活動

- ・学校の魅力や特色の発信
- ・教職員一丸となった広報活動

(3) 意識改革と資質向上

- ・「生徒による授業アンケート」等の活用による授業力の向上
- ・教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有と意見交換
- ・企画力の育成

(4) 学校行事

- ・生徒会の自主活動の推進
- ・部活動の活性化

### 【自己評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>今年度も昨年同様、「新型コロナウイルス感染症対策」の徹底と「生徒たちの学びを止めない」を基本に、可能な限り対面授業をおこなった。しかし3学期1月末から、変異株（オミクロン株）の流行拡大により生徒の感染者、濃厚接触者、また教員も家庭内感染から濃厚接触者が急増し対面授業が困難な学級・学年が増加した。学校閉鎖等の基準は大阪府のガイドラインに基づき行った。</p> <p>その該当したクラスにはオンライン授業（ズーム、ロイノートなど）の配信、また、感染者、濃厚接触者等で登校できない生徒にはハイブリッド授業（教室で授業の様子をズームで配信）を行った。4月には ICT 環境の整備も終わり、i-pad の導入2年目でもあり、急速に教員生徒の ICT のスキルもアップした。今年度から始まった中学校の新学習指導要領、観点別評価の取り組みはまだまだ課題があり引き続き研究していく。さらに令和4年度から実施される高等学校の新学習指導要領、観点別評価については特に評価、進級・卒業規定など教務内規を変更する必要がある。丁寧に保護者・生徒に説明と理解してもらい取り組みを行う</p>	<p>テーマとして、(1)新型コロナウイルスに係る学校の対応 ①学校、学年、学教閉鎖の判断の目安、②オンライン・ハイブリッド授業の取り組みについて学校側から説明する。登校させ対面授業を行う方針は評価できる。可能な限り学校行事も含め通常の教育活動の実施を要望された。通信環境によるが音声聞き取りにくい英語など発音する授業は理解しにくい。ズームに参加できない時の対応についてなど、個々の通信環境の問題点の指摘があった。「学校評価アンケート」から、ICT 関係の取り組みは高い評価をいただいた。研修やクラブ活動については、一層の取り組みを行うよう指摘があった。「生徒の自己授業評価案アンケート」から、ノートの取り方に関連して、デジタルを使いこなす中で子どもたちの中で ICT のスキルや情報の整理方法に差が生まれている。苦手な子どものケアもお願いしたい。</p> <p>その他の意見として、「学校で PCR 検査の実施ができないか」などコロナ関連の質問、意見があった。</p>

### 3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学 校 運 営	<p>ア、生徒に満足感や充実感を与える工夫された授業・クラブ活動への取り組み</p> <p>イ、学校の安全対策と配信システムの整備。</p>	<p>ア、「生徒の授業評価アンケート」等を分析し、中学部会・学年会等で検討し実践に移す。また、部活動では、効果的な指導方法を工夫する。</p> <p>イ、警察署・消防署等から講師を招き、交通安全・防災訓練、SNS、AED 等についての指導を受け、生徒はもとより教職員の安全意識を向上させる。Classi による交信システムを整備する。</p>	<p>ア、「生徒の授業評価アンケート」で 85%以上の生徒が充実した授業だと感じられるようにする。</p> <p>イ、防災訓練・交通安全・SNS 等の指導を年 1 回以上実施する。自転車事故について注意を促し、事故件数を 40 件以下にする。緊急時への対応を検証す</p>	<p>ア、学年、項目内容によって評価の数値に違いがある。教科、学年で分析し改善を目指す。</p> <p>イ、防災訓練・交通安全指導は、消防署・警察署が来校しての指導訓練ではなく、防災訓練は密を避けるため 2 分割で実施。</p>

<p>学 校 運 営</p>	<p>ウ、ICT教育の推進のため、ICT教育推進部の新設</p> <p>エ、組織の活性化による学校改革への意欲向上</p> <p>オ、生徒募集定員の確保</p>	<p>ウ、教員が iPad を活用して効果的に学習が進められるようになる。</p> <p>エ、教員が「設定目標自己診断」を実施することで、PDCA サイクルによる学校教育への改善意欲を向上させる。</p> <p>オ、公立中学校、塾等の訪問し、学校の魅力と進学実績等を発信し募集定員確保につなげる。</p>	<p>る。</p> <p>ウ、教員が iPad を活用して、効果的に授業を進められるようになる。</p> <p>エ、各教員の設定した目標について、管理職によるヒアリングを年 1 回以上実施し、目的の達成状況を把握し、指導・助言する。</p> <p>オ、入試広報部と教職員の連携により中学、高校ともに、定員を確保する。また、併願受験者 350 人をめざす。</p>	<p>交通安全指導は生徒指導部長によるズームで実施。SNS 指導は、中学部のみ NTT よりオンラインで実施。高校は各 HR で指導した。</p> <p>ウ、ICT教育推進部を中心に各学年、教科担当者が意欲的に取り組みスキルアップした。</p> <p>エ、全教職に個別面談を実施し意思疎通を図り、改善のための助言を行った。</p> <p>オ、中学校 42 名、高校 237 名と共に定員を充足できなかった。要因を分析し特に中学校の募集戦略の再構築を行う</p>
<p>教 育 実 践 の 充 実</p>	<p>&lt;教科指導&gt;</p> <p>ア、学習指導要領改訂に伴う特色あるカリキュラム編成</p> <p>イ、アクティブラーニングなどの手法を用いた授業方法・授業内容の工夫改善</p> <p>ウ、各教科で設定した研究テーマ</p>	<p>ア、教務部を中心に特色あるカリキュラム編成する。近年医療・看護系の進学希望が多いことから放課後講習等を活用し支援する。</p> <p>イ、教員の授業力の向上のため、学期に 1 回以上はアクティブラーニングを用いた授業に取り組む。</p> <p>ウ、各教科で設定した研究テーマについて研修を深める。</p>	<p>ア、運営委員会で高校新カリキュラムについて検討し、2022 年度に向けて始動する。指導力向上のため年 5 回以上の研究授業を実施する。</p> <p>イ、80%の生徒が主体的・対話的で深い学びだと感じる授業となるよう研究実践をする。</p> <p>ウ、課業内に設定された教科部会を月に 1 度以上開</p>	<p>ア、高校新カリキュラム完成。高校 2 年、3 年の講習科目は、再検討し、2023 年度に実施。研究授業のあり方はさらに精査する。</p> <p>イ、コロナ禍の中、グループ討議による対話的な学びとなる授業は困難であった。</p> <p>ウ、教科部会では、新カリキュラムについ</p>

	に沿った研修		催し、設定テーマについて研修する。	でも研修する
教	エ、英会話の運用力の向上と、今後の英語教育の進展を踏まえた取り組み	エ、中学・高校でALTを活用し、英会話の運用力の向上を図る。中学校では英語検定や放課後英語教室を活用して英語の運用力の向上を図る。	エ、中学でのALT、高校でのベルリッツの授業を通して英会話の運用力向上を図る。また、英語検定やGTECスコアの向上をめざす。	エ、コロナ禍の中、授業方法を工夫して、英会話の運用力向上を図ることができた。
	＜生徒指導＞ ア、挨拶運動の推進	ア、生徒会活動や部活動を通して生徒たちが自然と挨拶を交わせるようにする。	ア、生徒の9割以上が挨拶運動に参加していると実感できる環境をつくる。	ア、マスク着用が2年も続く中、工夫した挨拶運動の展開を考える。
育	イ、生徒一人ひとりに寄り添った学級指導	イ、生徒との対話を大切に、教員と生徒との望ましい人間関係を構築する。	イ、教職員が積極的に声かけをするとともに、生徒の変化を見落とさないよう個人懇談を実施する。	イ、昼休み、放課後などの時間を活用した懇談を積極的に実施した。
	ウ、情報端末機器の適正な使用のための指導	ウ、スマホ等の使用について、入学時や生徒集会等の機会をとらえて適正使用について指導する。	ウ、生徒を対象に、年2回以上の指導と、新入生保護者を対象とした説明会を開催する。	ウ、新入生オリエンテーション、中学部は外部講師を招き、複数回取り組めた。
の	エ、新制服導入に伴い、制服の着こなしについての指導	エ、学校に誇りを持って制服を着用するよう指導する。	エ、定期的に風紀検査を実施し、適正な着こなしを指導する。	エ、定期的に風紀検査は実施した。着こなしは、もう少し丁寧な指導が必要であった。
	＜進路指導＞ ア、新しい入試制度に対応した進路指導。	ア、各大学の入試改革が進む中、生徒一人ひとりの特性や能力等を大切に、将来を見据えた進路指導を行う。	ア、進路LHRの指導資料を作成する。生徒・保護者を対象に入試制度や進路状況等について説明会を開催する。大学現役合格率85%以上を目指す。	ア、高校3年在籍数の関係もあり学校推薦型試験は、20名。大学現役入学率は86%を達成した。
実	イ、学校推薦型選抜等の活用	イ、生徒や保護者からの希望を受け、準備委員会を経て、推薦委員会で選考する。	イ、校内指定校推薦委員会を適正に運用し、推薦者を選考する。	イ、校内指定校推薦委員会が適性に運用され公正な選考ができた。

教 育 実 践 の 充 実	ウ、退学の防止対策	ウ、「入学した生徒は卒業まで」を合い言葉に、保護者と連携し一人ひとりに寄り添った指導の徹底を図る。	ウ、個人懇談を大切にし、生徒との信頼関係を構築する。退学率を1%未満にする。	ウ、学業不振・健康上の理由での転学者はあったが、退学者は0名であった。
	＜ICT教育の推進＞			
	ア、情報端末機器を活用した授業実践	ア、本年度より導入したiPadを活用した授業の実践に取り組む。	ア、授業の中でロイロノート等を活用できるようにする。また、双方向の通信ができるよう研修する。	ア、通常の授業時からICT機器を使用する教員が飛躍的に増加した。又、休校時もオンライン授業での対応もできた。
	イ、校内の情報化の整備。	イ、校内の情報システムを整備し、統合システムなどが円滑に運用できるようにする	イ、全員がシステムを理解することで、業務の省力化につなげる。	イ、4年度の新統合システム移行に向け、全教員が意欲的に取り組んだ。
	ウ、ICTリテラシーの育成とセキュリティの確保	ウ、目的に応じてICTを活用できる能力と、セキュリティーに対する意識向上を図る。	ウ、年3回以上の教員研修会を開催するとともに、生徒には、技術科や情報の授業を通して育成する。	ウ、ICT教育推進部を中心に教職員・生徒の意識は高まった。
	＜人権教育＞			
	ア、人権意識の醸成	ア、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」のない学校づくりに努める。	ア、「いじめゼロ」を目指す。いじめが起これないよう、連携して対応する。	ア、大きな問題事象はなかったが、日々の様子、変化を見逃さないきめ細やかな指導を継続して行う。
	イ、人権教育にかかる授業の工夫改善	イ、生徒とともに考える学習形態・参加型学習の研究・実践に努める。校外での研修会に参加し、他校の実践に学ぶ。	イ、資料や指導方法・指導内容について研究・検討するとともに、校外の研修会に10人以上が参加する。	イ、校外の研修は、オンラインが多く、今後も参加できる環境を整備する。
	＜情操教育＞			
	ア、人間としての生き方や在り方を考える道徳教育の研究・実践	ア、人間としての生き方や在り方を学び、それを自身の生活に活かす	ア、道徳・情操教育委員会を学期ごとに開催し、年間計画を樹立するとともに、道徳の時間指導の資料開発に努める。	ア、宗教課と連携を密に組織的な取り組みを年間計画に組み込む。
イ、宗教の時間を	イ、他校の実践も参考にしながら	イ、指導内容の充実を図る	イ、予定通り研修会は	

教 育 実 践 の 充 実	通して心豊かな人間の育成	指導内容・指導方法について研究を深め、実践につなげる。	ため宗教教育担当者会議を開催する。宗教に関する校内研修を年1回以上開催する。	実施できた。今後も宗務課と連携をとりながら計画立案を行う。
	<p>&lt;家庭との連携&gt;</p> <p>ア、ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行</p> <p>イ、保護者ニーズの把握と適切な対応</p> <p>&lt;広報・募集活動&gt;</p> <p>ア、学校の魅力や特色の発信</p> <p>イ、教職員一丸となった広報活動</p>	<p>ア、ホームページの随時更新と学校新聞・中学便り等の定期発行を通して、学校の情報を積極的に発信する。</p> <p>イ、PTA 役員や学級委員等と連携し、保護者のニーズを把握し、解決に向けて努力する。</p> <p>ア、学校案内・ホームページを活用して魅力や特色を発信する。また、生徒の出身中学校や学習塾等を訪問し、意見の交換をする。</p> <p>イ、入試広報部と教職員が連携し、本校の取り組みや学校の魅力について発信する。</p>	<p>ア、ホームページに各行事やトピックス等を随時更新して発信する。金光八尾新聞年2回、中学便り・保健室便りなど毎月1回、定期的に発行する。</p> <p>イ、年1回以上保護者会を開催し、保護者からのニーズを精査し、学級委員と連携し課題の解決に努める。</p> <p>ア、本校の魅力・特色等を発信するとともに、指摘内容等の改善に努めることで、中学、高校の募集定員の確保につなげる。</p> <p>イ、オープンスクール・学校説明会・私学展等に、広報部職員と教職員が参加・協力して、受験生や保護者に対して本校の魅力を発信する。また、効果的な発信内容や発信方法について検討する。</p>	<p>ア、ホームページは、担当業者を代え全面改訂し、広告効果のあるものに作り替える。保護者への発信は紙ベースとデジタルを併用しハイブリット型の配信を予定。</p> <p>イ、コロナ禍の中、保護者の要望収集は厳しい面もあったが、PTA 役員から情報提供をいただいた。</p> <p>ア、中学校・高校共に定員充足できなかった。4年度よりホームページ、学校案内等を刷新し新たな魅力づくりの発信を行う。</p> <p>イ、教職員と入試広報部の協力体制はより強まった。広報活動、学校説明会を様々な角度から再構築していく。</p>
	ア、「生徒による授業アンケート」等の活用による	ア、各教員が「生徒による授業アンケート」を活用し授業の実態を把握する。また、教科会等で	ア、各教員の授業に対する生徒の肯定的評価が80%以上となるようにする。	ア、9割強の教員の授業評価は80%以上である。80%未満の教

<p>意識改革と資質向上</p>	<p>授業力の向上</p> <p>イ、教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有</p> <p>ウ、企画力の育成</p>	<p>調査結果を分析し、各教員が授業の改善に活かす。</p> <p>イ、教科会、部会、学年会を定期的に開催し、情報交換や、受講した研修内容等を報告し、情報を共有する。</p> <p>ウ、学校行事や学年行事に対する意見・改善点の集約を通して、企画力の充実を図る。 外部研修等を通して、学校運営への参画意欲の向上を図る。</p>	<p>イ、中学部会・各学年会を毎週開催するとともに、教科資料室の設置に伴い教科会・各部会を定例化して、課題について意見交換をする。</p> <p>ウ、教員の各行事への改善意欲が90%以上となるようにする。 校外での研修会等に延べ30人以上が参加する。</p>	<p>員には授業参観を行い助言・指導していく</p> <p>イ、学年会は週回と頻繁に開始しているが、部会、科会の回数が増やせる年間計画を立案する。</p> <p>ウ、コロナ禍の中、行事の中止、延期が余儀なくされたが、各学年団が外部からの情報収集によく努めた。</p>
<p>学校行事</p>	<p>ア、生徒会の自主活動の推進</p> <p>イ、部活動の活性化</p>	<p>ア、生徒会役員や各クラブ部員が自主的・自立的に文化祭、挨拶運動、奉仕活動等に参加するよう支援する。</p> <p>イ、部活動を通して生徒の自主活動を推進させる。</p>	<p>ア、生徒会役員等の提案を大切にし、生徒の自主活動の肯定的評価が80%以上になるようにする。</p> <p>イ、部活動への入部率が、中学で80%以上、高校で45%以上をめざす。</p>	<p>ア、文化祭が開催されず生徒会役員が活躍する場は少なかったが、外部団体とコラボした企画など生徒の自主的な運営がなされた。</p> <p>イ、コロナ禍の制約の中、顧問、部員が感染症対策をした中、練習を工夫し、よく頑張った</p>